

汗ばむ陽気となりました

もうすぐ初夏なんですね

これを書いているのは四月の二十日です。

このところ、うららかな日になったと思えば、台風並みの春の嵐に見舞われたり。春は周期的にお天気が変わるといわれていますが、まさしくめまぐるしい空模様が続いています。

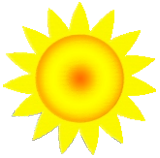
これを書いている時点で、全国そこかしこでは、気温25℃以上の「夏日」はおろか、気温が30℃を超える「真夏日」を記録したところもあるようです。ここ松浦ではそこまでの記録は出ていませんが、それなりに汗ばむことが多くなりました。

もうすぐ五月に入り、二十四節気の「立夏」を過ぎると、暦の上ではもう夏になります。

気象庁が発表している長期予報を見てみると、気温は平年よりやや高めに推移しそうですね。

案外汗ばむことが多いこの時期も、

熱中症などになりやすかったりします。皆さまにおかれましては、こまめな水分補給などをしてくださいね。



神社うんちく帖

さて。今回からは、神社についての豆知識のコーナーとして「神社うんちく帖」を。

以前、この刊行物が『淀姫歳時記』と銘打っていた頃に、このタイトルで記事を書いておりましたが、今回からはその再来となります。今回のお題は、

「そもそも「神さま」とはなんなのか？」

このあたりから始めて行きたいと思います。

◆記紀神話以前の「神さま」

実は、太古の昔と現在では「神さま」に対する考え方が違っていました。

現代では各お社には御祭神が祀られています。御祭神には名前があり、「神話という物語」の中で語られています。

物語の中では、神さまにそれぞれ性質や性格などが付与され、あたかもそこに人格があるかのように描かれています。そして、今もその物語に沿って「神さま」というものがどういう存在であるのか」が認知されています。

しかし、その物語が登場するまでは、神さまはそういった「人格があるような存在」、はたまた「人間のような姿をした存在」であるとは

認識されていなかったようです。そういった神さまが登場するのは、もう少し時代が下ってからのこととなります。

「物語」に語られる以前の、大昔の人々が見ていた神さまというのは、人間を取り巻く自然や環境そのものでした。

それはときには山であり海であり、木々であり岩であり、風にも川にも岩にも、谷や坂や岬といった地形にも、神さまは宿ると考えられました。もちろん、人間が生活を営む場にも神さまはいました。井戸やかまど、家屋敷にも神さまはいました。

神さまはこの世界のすべてにあまねく存在しており、言い換えるならば、この世界そのものが神さまだったのです。

そして、人間もまたその神さまの一部であり、天地自然の一部であるという考え方で「神さま」という存在を捉えていたようです。

紙面も尽きてきましたので、この続きは次回にまた。